

小児科における研修の目標, 方略(方法)及び評価

1 独自の研修目標・目的

将来小児科を標榜しない医師が、幅広い診療能力を有する臨床医となるために必要な小児科診療を研修することを目的とする。

2 小児科研修の特徴

- (1) 一般小児医療, 各種専門医療および小児救急医療の3つの柱を中心に, 幅の広い研修ができる。
- (2) スタッフと研修医がペアとなり, 小児科単科当直の形で24時間体制を敷き, 二次および三次救急に対応しており, 十分な小児救急の研修ができる。

3 研修の目標・目的達成のための方略・方法

- (1) 入院患者の担当医は入院を決定したスタッフおよび入院時の処置を行った研修医としている。疾患によっては3~4名の主治医団になる。
- (2) 特殊例に関してはサブスペシャリティーを生かして主治医を決める。
- (3) 病棟回診は9:20より看護師の申し送りに引き続き, 外来当番および救急センター当番を除いた全員で行なう。受け持ち患者を優先して診察するが, どの患者を診察しても良い。
- (4) 退院の場合はその日のうちにサマリーおよび病歴情報を記載する。
- (5) 午前中の外来は一般外来で, 午後は特殊外来として神経外来, アレルギー外来, 心臓外来, 血液外来, 腎・内分泌外来, 予防接種外来および乳児検診を行っている。
- (6) 乳児検診, 予防接種および救急センター当番は当番表による。
- (7) 当直はスタッフと研修医のペアで24時間体制で行っている。研修医の当直回数は月7回程度である。

4 目標達成の評価

当院作成の評価表に研修医評価及び経験症例数を記入し, 指導医の評価を受ける。ローテーション終了時において指導医や看護部による総合的評価を受ける。

5 検査

心エコー, 腰椎穿刺および骨髄穿刺など。これらの検査は頻度が高いので3カ月間でもある程度習得可能である。

6 カンファランス

- (1) 抄読会: 毎週月曜日に輪番制で行なう。
- (2) 入院患者カンファランス: 毎週水曜日に行なう。主治医(研修医を含む)が受け持ち患者についての状況を説明し, 治療方針等の問題点につき討議する。
- (3) 画像診断カンファランス: 隔週の火曜日に放射線科医師ととの間で興味あるCT, MRI等について討議する。

7 週間スケジュール

	午前	午後	夕方	夜間
月	病棟・救急	病棟・救急	抄読会	小児救急
火	病棟・救急	病棟・救急 乳児健診	画像診断カンファランス (隔週)	小児救急
水	病棟・救急	病棟・救急	入院患者カンファランス	小児救急
木	病棟・救急	病棟・救急 乳児検診, 予防接種		小児救急
金	病棟・救急	病棟・救急		小児救急

8 研究活動等

機会があれば, 年2回の日本小児科学会宮城地方会及び年4回の仙台市小児症例検討会において, 症例発表を行なう。また, 仙台市立病院医学雑誌に論文を投稿することを勧めている。